

《専門科目》

| | | | | | |
|---------------------------|--|-------|------|----------|-----------|
| 科目名 | 卒業研究ゼミ | | | | |
| 担当者氏名 | 中村 敏男、専任教員 | | | | |
| 授業方法 | 演習 | 単位・必修 | 2・必修 | 開講年次・開講期 | 2年・通年(前期) |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | 1-1 教養 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | |

《授業の概要》

各ゼミの研究領域から各々がテーマを定め、テーマに沿ったグループを構成して論文を書く。各ゼミの指導教員が調査や研究方法、論文の内容等について指導を行う。4月のテーマ設定から、中間発表、領域内での発表を通して、個人論文とグループ論文及びグループ論文の抄録を提出する。全グループがポスターセッションを実施し、優秀な論文は卒業研究発表会において発表する。2年間の学びの集大成として取り組む学修である。

《授業の到達目標》

- ・教養教育やその基礎の上に立った専門教育の集大成として、テーマに沿った研究論文をまとめることができる。
- ・研究内容、方法、計画に沿って、仮説に基づく調査や実験を行うことができる。
- ・問題発見・解決能力、情報活用能力、プレゼンテーション能力、コンピテンシーを身につけることができる。

《成績評価の方法》

- 1)論文取組みへの真摯さ、研究心、研究の進め方、論文の内容と書き方等総合的に評価する。
- 2)学内審査により優秀な論文に推薦されたものは卒業研究発表会で発表する。

《テキスト》

必要に応じプリント等を配布する。

《参考図書》

本学の「卒業研究抄録集」
 本学の「研究紀要」ほか、各領域の指導教員が指示する。

《授業時間外学習》

各人が課題を追究するため、積極的に指導教員と議論するよう心がけること。
 毎回の授業について参考文献等を用いて概ね1時間の自己学習をすることが望ましい。

《課題に対するフィードバック等》

研究テーマ、研究仮説、調査方法、データ処理、原稿執筆等について、指導教員からその都度適宜指導・助言をし、それらの内容をゼミ全体で共有する。

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など |
|----|---------------|-----------------------------------|
| 1 | 卒業研究・卒業論文概要 | 卒業研究の取り組み方 卒業論文の構成 卒業研究・卒業論文作成の倫理 |
| 2 | 卒業研究個人研究課題の検討 | 卒業研究個人研究課題候補の提示とディスカッション |
| 3 | 卒業研究個人研究課題の設定 | 卒業研究個人研究課題の選定 研究グループ構成の検討準備 |
| 4 | 卒業研究グループ構成の検討 | 卒業研究個人研究課題に沿ったグループ構成の検討、研究方法の検討 |
| 5 | 卒業研究グループ構成の決定 | 卒業研究グループ研究課題の設定と研究方法の検討及びディスカッション |
| 6 | 卒業研究方法の検討 | 個人研究・グループ研究について、研究方法に関するディスカッション |
| 7 | 研究計画の検討 | 個人研究・グループ研究について、研究計画の作成 |
| 8 | 調査・研究準備(1) | 研究資料の収集 研究準備 アンケート内容などの検討 |
| 9 | 調査・研究準備(2) | 研究資料の収集 実験などの準備 アンケート用紙などの構成と作成 |
| 10 | 調査・研究活動(1) | 実験・調査・アンケート等の実施 |
| 11 | 調査・研究活動(2) | 実験・調査・アンケート等の実施 |
| 12 | 調査・研究活動(3) | 実験・調査・アンケート等の集計、結果分析の準備 |
| 13 | 調査・研究活動(4) | 実験・調査・アンケート等の集計、結果分析 |
| 14 | 調査・研究データの解析 | 実験・調査・アンケート等の解析 |
| 15 | ゼミ全体としての情報共有 | 調査・研究活動に関するグループごとの進捗状況報告 |

《専門科目》

| | | | | | |
|---------------------------|--|-------|------|----------|-----------|
| 科目名 | 卒業研究ゼミ | | | | |
| 担当者氏名 | 中村 敏男、専任教員 | | | | |
| 授業方法 | 演習 | 単位・必修 | 2・必修 | 開講年次・開講期 | 2年・通年(後期) |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | 1-1 教養 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | |

《授業の概要》

各ゼミの研究領域から各々がテーマを定め、テーマに沿ったグループを構成して論文を書く。各ゼミの指導教員が調査や研究方法、論文の内容等について指導を行う。4月のテーマ設定から、中間発表、領域内での発表を通して、個人論文とグループ論文及びグループ論文の抄録を提出する。全グループが資料を基にポスターセッションを実施し、優秀な論文は卒業研究発表会において発表する。

《授業の到達目標》

- ・教養教育やその基礎の上に立った専門教育の集大成として、テーマに沿った研究論文をまとめることができる。
- ・研究内容、方法、計画に沿って、仮説に基づく調査や実験を行うことができる。
- ・問題発見・解決能力、情報活用能力、プレゼンテーション能力、コンピテンシーを身につけることができる。

《成績評価の方法》

- 1)論文取組みへの真摯さ、研究心、研究の進め方、論文の内容と書き方等総合的に評価する。
- 2)学内審査により優秀な論文に推薦されたものは卒業研究発表会で発表する。

《テキスト》

必要に応じプリント等を配布する。

《参考図書》

本学の「卒業研究抄録集」
 本学の「研究紀要」ほか、各領域の指導教員が指示する。

《授業時間外学習》

各人が課題を追究するため、積極的に指導教員と議論するよう心がけること。
 毎回の授業について参考文献等を用いて概ね1時間の自己学習をすることが望ましい。

《課題に対するフィードバック等》

研究テーマ、研究仮説、調査方法、データ処理、原稿執筆等について、指導教員からその都度適宜指導・助言をし、それらの内容をゼミ全体で共有する。

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など |
|----|--------------|--|
| 1 | 研究計画の再確認 | 個人論文、グループ論文、グループ論文抄録、ポスター作成までの日程、手順等の確認 |
| 2 | 個人論文の作成(1) | 個人論文の構成検討 |
| 3 | 個人論文の作成(2) | 個人論文 「はじめに」「方法」の下書き |
| 4 | 個人論文の作成(3) | 個人論文 「結果」下書き |
| 5 | 個人論文の作成(4) | 個人論文 「考察」の下書き |
| 6 | 個人論文の作成(5) | 個人論文 「おわりに」の下書き |
| 7 | 個人論文の作成(6) | 個人論文 全体の調整、まとめ |
| 8 | グループ論文の作成(1) | グループ論文 執筆分担確認 「考察」の内容の検討 |
| 9 | グループ論文の作成(2) | グループ論文 執筆分担に沿った下書き |
| 10 | グループ論文の作成(3) | グループ論文 「結果」の調整と全体のまとめ |
| 11 | 抄録作成(1) | 抄録内容の検討 |
| 12 | 抄録作成(2) | 抄録作成、電子データとりまとめ |
| 13 | 研究成果の発表 | グループごとに研究結果の発表、相互評価 個人論文、グループ論文、グループ論文抄録の提出準備 |
| 14 | ポスターの作成(1) | ポスターセッションの発表方法確認、グループ論文内容の集約とポスター内容の検討 |
| 15 | ポスターの作成(2) | ポスター作成、電子データとりまとめ、発表練習、提出の準備 |